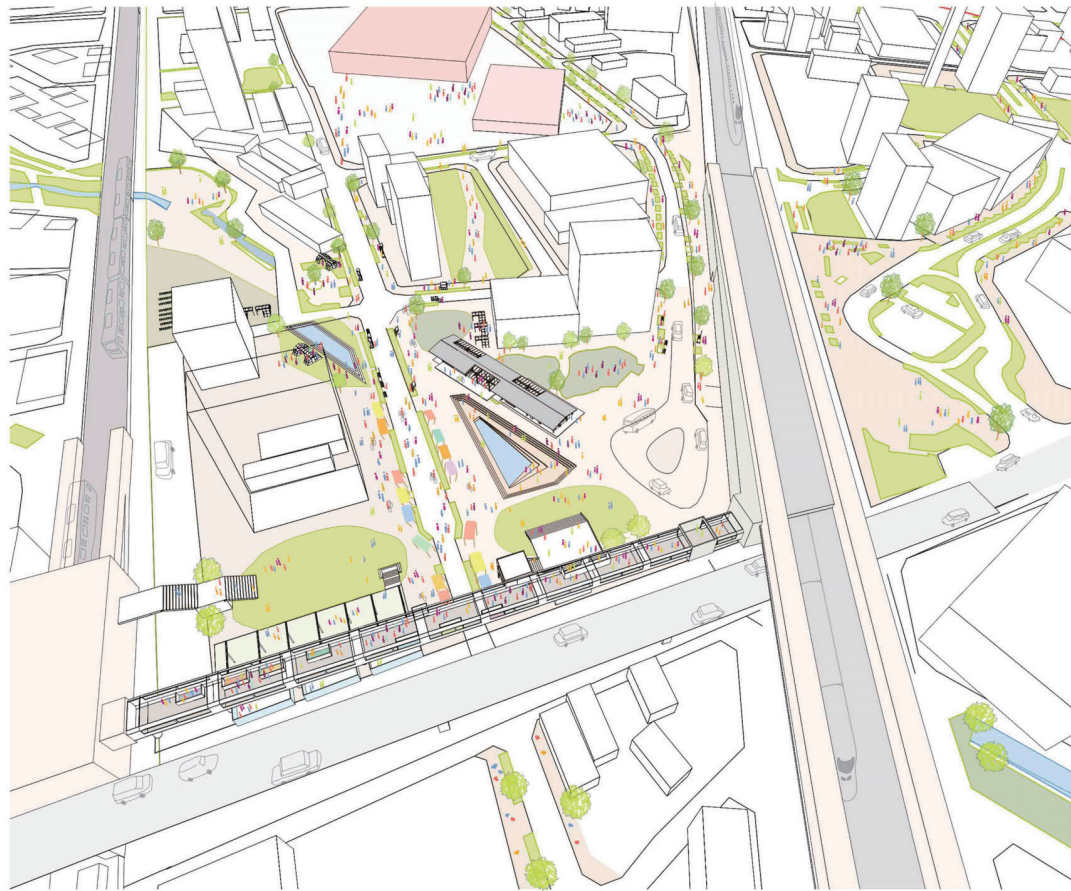


Resource Relation City 三河安城

地域資源を結び付ける事で、通過させない魅力的な街創りを目指す。



□地域資源図

三河安城駅周辺には、明治時代より農業が盛んに行われ、最先端農業の地として日本のデンマークと呼ばれた「農業」、建設計画中の多目的拠点是最先端アリーナとしてプロダクトボールのみならず多様な活用予定があり、サイクリングロードなども含めた「スポーツ」、櫻井宮尊親、寺町、水の足しだった碧海台地を豊かな田畑へ変えた明治用水、戦後の工業などの「文化・歴史」といった、地域資源が3つ存在している。

- 農業
豊かな田畑、地元農家、安城農林高校、農業支援、アグリライフ支援センター、スポーツ講座、一坪農園、地ビール工場、道の駅デンパーク
- スポーツ
新設アリーナ、安城市スポーツセンター、明治用水サイクリングロード、ソフトボール、地ビール工場、道の駅デンパーク
- 文化・歴史
明治用水、安城市のさと、アンフォーレ、デンパーク、石炭山、御影塚、新美南吉、美海漁、鎌倉道、福徳寺、安城緑地、寺町、三河一徹寺、明治航空基地、旧産業組合農業倉庫

●スポーツ文化・歴史
プロダクトボールの新アリーナ、スポーツ教室、指導者教育の場、NPO、ボランティアスポーツクラブ、明治用水サイクリングロードの整備、ソフトボールチーム、スターボードパーク整備

●文化・歴史
明治用水の整備と体験する場、クリエイティブな活動の場(注: 街外)、歴史の散歩道のハブ機能、スタートアップ企業の支援、自転車による賑わいの可視化

●農業・スポーツ
スポーツ観戦に農作物を使ったカフェ、地ビール、地産地消、観光自給型で駅前までアグリバーガー、地元産の農産物の活用

●農業・文化・歴史
スポーツを通じた国際交流によって外国人、移住を受け入れる土壌がある、移住者として外国人の増加、シェアリング・エコノミーで生活した野郎を使った収穫祭りを行う場、新鮮な農産物を買える場所がある。

●スポーツ文化・歴史
スポーツ観戦だけでなく観戦者体験ができる場所がある、サイクリングしてシャワーやドリンクで、子供が安全に遊べる、その近くで地元農産物を買える、父親が自転車をこぎながら、NPOなどの活動仲間と集まって話したり、飲んだり、本を読んだりできる。安城に住むアーティストが制作したアート作品の近くで高校生がスケッチをしている。

□資源の連携

「農業」「スポーツ」「文化・歴史」を魅力的な資源へ展開するための方法、装置、アクティビティを提案する。また現状これらの資源は分散しており、個々の活用方法だけでなく「農業」「スポーツ」「文化・歴史」が結びつきやすい資源ネットワークを構築する。互いにある魅力を高め、そして結びつける事で生まれる魅力的な三河安城周辺の資源は、ただ消費するのではなく文化として発展していく。

●農業
地産地消の産物販売、地元農産物を使ったカフェ、マルシェ、安城農林高校の産物販売所、マルシェ、マーケティング、スタートアップの新しい取り組み、地元産の産物を使ったスタートアップの支援、エビリティ(道内産地産地産品)

●文化・歴史
明治用水の整備と体験する場、クリエイティブな活動の場(注: 街外)、歴史の散歩道のハブ機能、スタートアップ企業の支援、自転車による賑わいの可視化

●スポーツ文化・歴史
プロダクトボールの新アリーナ、スポーツ教室、指導者教育の場、NPO、ボランティアスポーツクラブ、明治用水サイクリングロードの整備、ソフトボールチーム、スターボードパーク整備

●農業・文化・歴史
スポーツを通じた国際交流によって外国人、移住を受け入れる土壌がある、移住者として外国人の増加、シェアリング・エコノミーで生活した野郎を使った収穫祭りを行う場、新鮮な農産物を買える場所がある。

●スポーツ文化・歴史
スポーツ観戦だけでなく観戦者体験ができる場所がある、サイクリングしてシャワーやドリンクで、子供が安全に遊べる、その近くで地元農産物を買える、父親が自転車をこぎながら、NPOなどの活動仲間と集まって話したり、飲んだり、本を読んだりできる。安城に住むアーティストが制作したアート作品の近くで高校生がスケッチをしている。

□結び付けたその先

市民ネットワーク・組織ネットワーク・資源ネットワークを活用した、資源を結び付けるためのプロジェクトを3つ提案する。またそれらプロジェクトは市民活動と結びつき構築する事で主体となっており、またそれらプロジェクトを文化化して未来をみんなで思い描く事を目指す。

市民ネットワーク
資源ネットワーク
組織ネットワーク

●水路を繋ぐプロジェクト
休日や週末に家族でサイクリング、子供が水遊びし自然を学ぶ、自分達が作った生食を売る、地域の子どもたちと交流する、地産地消のアート、趣味のスポーツで楽しむ、アーティストの活動場

●駅を繋ぐプロジェクト
休日や週末に家族でサイクリング、子供が水遊びし自然を学ぶ、自分達が作った生食を売る、地域の子どもたちと交流する、地産地消のアート、趣味のスポーツで楽しむ、アーティストの活動場

●緑を繋ぐプロジェクト
休日や週末に家族でサイクリング、子供が水遊びし自然を学ぶ、自分達が作った生食を売る、地域の子どもたちと交流する、地産地消のアート、趣味のスポーツで楽しむ、アーティストの活動場

□実現のプロセス

2040年までに三河安城駅周辺を通過させない魅力あるエリアにする為、短・中・長期に渡り「検討」「活用・実験」「民間」への働きをしてゆき実現させてゆく。その現状に応じた計画のアップデート、各プロジェクトの連携・市民への理解などを更新させてゆく。

2022
デザイン部会
市民WS
デザインブック完成
デザインの見直し・調整

2026
新アリーナ完成
第三次安城市都市計画マスタープランの制定

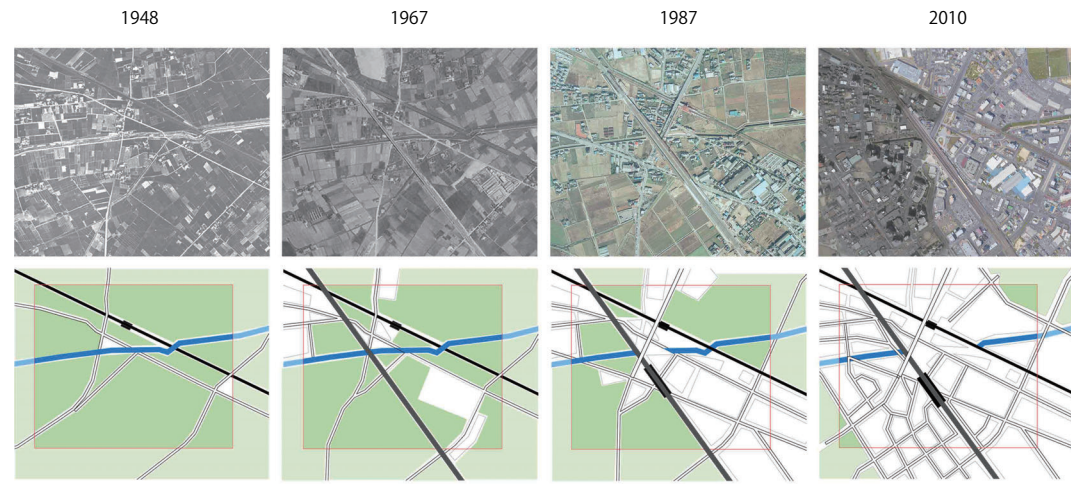
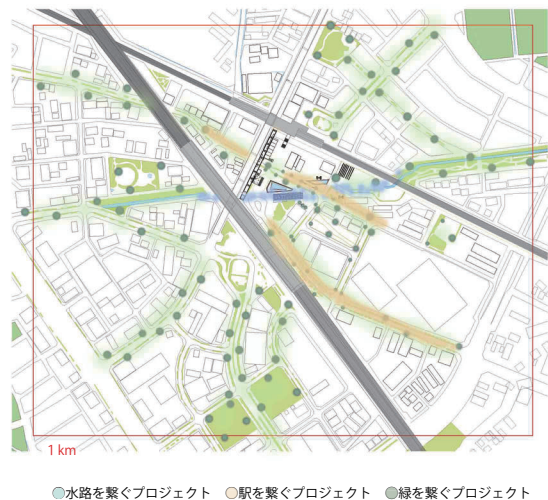
2028
デザインの見直し・調整

2030
水路を繋ぐプロジェクト

2040
デザインブックバージョンアップ

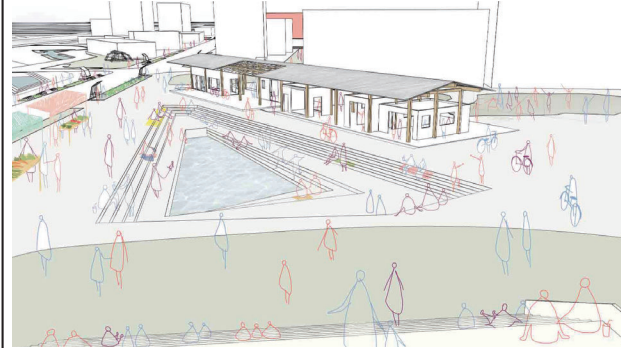
■全体計画

通過するのではなく、この街に目的を持って訪れ、街を楽しめるまち。この街に誇りを持って住み続けられるまち。そんな未来を描き、共有することを目標とする。既存の地域資源をより魅力的に、より包括的に、より多くの人が関わるような21世紀の三河安城像を提案する。具体的には、三河安城の魅力的な資源「水路」「駅」「農業」「スポーツ」「文化・歴史」「人」を繋ぎ、新たな資源へと変えてゆくプロジェクトを3つ提案する。これらのプロジェクトはお互いにネットワークを持ち、市民活動やNPO・地域のボランティア団体などと連携することで、地域全体でまちづくり・まちがらしができると考える。



□水路を繋ぐプロジェクト

明治時代に造られた周辺一帯を豊かな田園風景に変えた明治用水は、現在整備が行われサイクリングロードや桜並木と組み合わせ美しい街並みを生み出している。しかし駅前では陥落されており、この魅力的な資源を使っていないのが現状だと思ふ。このプロジェクト一部を開業した明治用水を視覚的に繋ぐだけでなく、明治用水に関わるさまざまな資源をこの場で体験でき、ネットワークの中心拠点を目指す。



●現在の明治用水
長根公園周辺 桜並木やベンチなどの整備
北側サイクリングロードや歩行空間の整備
都市整備によって暗渠開通し子供たちが体感で明治用水の歴史を学べる・地域資源の中心へ

●計画案
サイクリングショップなどのスポーツ施設
地元特産品を使ったカフェ
地元特産品のショップ
地域ボランティアによる子ども食堂や子どもの活動の場
緑の連続空間
駅前への新たな歩行空間の整備
駅前イベントの開催は歩行者天国に
拠点-アリーナの軸は緑・水・歴史・文化などさまざまな役割の場が生まれる。
新アリーナ

□駅を繋ぐプロジェクト

新幹線・JR在来線駅を繋ぐ連絡通路は約1500mのスロープになっている。立地的、空間的にもまちづくりをする上で重要な資源だと捉え、周辺環境と連携したリノベーションを提案する。このプロジェクトでは駅と駅を繋ぐだけでなく、さまざまな三河安城の資源を繋ぎ、通路だけでなく滞在できる空間を内包した魅力的な場所にしていく。



●現在の使われ方
現在新幹線駅へ
現在在来線駅へ
駐輪場
ベンチスペース
喫煙所

●機能分布
地元アーティスト、小中学生、街の勉強教室のギャラリー
ステージ状の大階段 連絡通路からの動線
マイクロライブラリー 夜でも安心して送迎待ちができる
NPO、スポーツクラブなどの市民活動のためのミーティングスタジオなど
雨の日でも活動ができる 大屋根広場
緑を繋ぐプロジェクトとの連携によって 毎週朝市を開く
水路を繋ぐプロジェクトとの連携によってさまざまな活動をネットワーク化

□緑を繋ぐプロジェクト

現在、三河安城駅周辺では都市化によって地域の資源である農業によって生まれる美しい田畑、農作物、農業ネットワークなどが失われつつある。このプロジェクトでは街の緑化や公園の一部を市民へ貸出、市民が農作物、植物を育て、農作物を育てるだけでなく市民が町を育てていると感じることが出来る場所にしていく事を目指す。



●エリアによる個性
水路を繋ぐプロジェクトと連動し 毎週朝市などが行われる。
長根公園・明治用水など 緑・自然環境が整備されている
車通りも多く人も多く歩いている。
ツインパークまでの動線として歩行空間が広く取られている。
近年整備された商業店舗が近く車通りが多い
高層のマンション・アパートが建ち歩行空間が十分確保されている
明治用水が流れておりサイクリングロードや藤棚などがある。
新幹線や新アリーナのそば歩行者空間が広い

●ファニチャーのデザイン
ファニチャーを3種類デザインした。歩行空間の有無、ファニチャーに付随する機能、周辺環境に合わせてファニチャーを設置する事で、街に対して身近な場所から関わる事ができる。
L M S
つかうmeによる自動販売機・WiFi・調査
生ゴミなどを回収するコンポスト
太陽光・風力発電
照明設置
農ハイスに使う資材を使ったストリートファニチャー
シェアサイクルのハブ

●プロジェクトの展開
まち 借入込み・公園の一部を市民に貸出す
市民 サブスク農業を行う
人それぞれができる関わり方
ストリートファニチャーとの連携
エリアによって作物を収穫
身近な環境からの食育
エイブルシティの実践導入
市民の主体的な関わり場
美しく魅力的な通り・通
エリアによる収穫祭り
教育機関との連携
持続可能な地域への拠点に